



海の子

浜松市立舞阪小学校
学校だより
令和7年6月30日



地域の皆様に支えられて

校長 古川 里江

6月18日に舞阪地区民生委員・主任児童委員との連絡協議会を開催し、委員の皆様から様々な声をいただきました。授業参観については、子供たちがよく頑張っていること、鉛筆の持ち方に課題があること、以前と現在の授業の違い等が挙げられました。学校外の生活については、左右をよく見ずに道路を横断する子がいて危険、ヘルメットの着用の仕方が心配、車の事故に子供たちが巻き込まれないか心配等、交通安全に関することがいくつか挙げられました。一方で、今年度は挨拶が特によいと感じるといううれしい声もいただきました。いつも子供たちを温かく見守ってくださり、ありがとうございます。

本校におけるコミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置している学校)も、4年目を迎えました。変化の激しい社会において、子供たちの将来を見据えた教育活動を展開する必要があり、学校運営協議会にて目標・ビジョンの共有や課題の共有を行い、子供たちに必要な支援を地域からいただいています。今後も、連携・協働体制の充実を目指し、さらに地域と共にある舞阪小学校をめざしていきたいと考えています。

命について考える日

浜松市の全小中学校では、尊い命が失われた悲しい出来事を決して忘れることのないよう、6月12日を基準日として「いのちについて考える日」の取り組みを実施しています。今年度、本校では、6月9日(月)を「命について考える日」として、朝会において、命について学んだ道徳科の授業で感じたことを各学年の代表児童が発表したり、校長から子供たちに話したりしました。また、火災発生を想定した避難訓練も実施し、「命の大切さ」、「命を守るために必要なことは何か」、「命を輝かせるとはどういうことか」を真剣に考える一日となりました。

<6月9日朝会 校長の話>

今日は命について考える日です。浜松市のどの小学校、中学校でも命について考える日を定め、このような会を開いている所が多いです。この世にたった一つしかない命です。みなさんが、命について考え、自分の命と周りの人の命を大切にするためにこの日がありました。

舞阪小学校の目標「さかな」の「な」は「なかま」ですね。

みんなを大切にしてほしい。

思いやりのある行動をしてほしい。

自分の命はもちろん、みんなの命を大切にする子になってほしいという願いが込められています。

舞阪小学校は来週6月19日(木)に152歳の誕生日を迎えます。

みなさんにも誕生日があります。誕生日はあなたが生まれた大切な日、命が生まれた日です。誕生日は、「生まれてきてくれてありがとう」という周りの人の気持ちや、一つ年をとったことで、命が確かに今、存在していることの確認をする日だと思います。

私たちは一人では生きていけません。多くの人に助けられ、支えられたから、今、あなたはここにいます。そして、命と時間の二つだけは、人から借りたりもらったりしたら返すことができません。だからこそ命と時間は特に大切に守らなければならないものなのです。「命を大切にする」ということは「人を大切にする」ということです。あなたの周りにはあなたを大切に思ってくれる人がたくさんいます。だからあなたも周りの人を、周りの人の命を大切にしてください。

私の願いは、毎日みなさんが、安全に学校に来て、安全に生活して、安全に家に帰ることです。そして、元気で明るく生活してほしいと願っています。命の大切さについて改めて考えてみましょう。

朝会では発表された各学年児童の作文の一部を紹介します。

いきているから できるんだね【1年生代表児童】

どうとくのかに「みんな いきている」のべんきょうをしたよ。
せんせいが、「いきている。」ってどういうことかな、ってきいたよ。そしたらみんながつぎつぎにはなしたよ。
・しんぞうがうごいている ・ごはんをたべられる ・すいぶんほきゅう！！ ・のうがうごいている
・そうぞうする ・ごめんねっていう ・みんなのきもちをちゃんとおぼえている ・ねむくなったらしっかりねる
・みんながいったことをちゃんときく ・こまったときにはたすけてあげる ・がっこうにくる
・いっしょになにかをやる ・だいじょうぶっていつてあげる ・みんなであそんでみんなでまなぶ
たくさんのかんがえでこぼんがいっぱいになったよ。そして、いきているのは、ぼくたちにんげんだけじゃなくて、むしやあさがお、どうぶつたちもいきているとわかったよ。
いきているってたのしいね。うれしいね。みんなでたくさんまなんだよ。



いのちについて 道とくでべんきょうしました【2年生代表児童】

いのちはとても大じだと思いました。どうしてかという、いのちというのは一つしかないもので、もしいのちをなくしてしまうとしんでしまい、友だちや家ぞくいろいろな人をかなしませます。
そのことを知って、いのちがもっと大切だと思いました。これからはいのちをもっと大切にしようと思いました。

「自分のいのち」があれば【3年生代表児童】

「自分のいのち」がすごく大切だと思います。いのちがなかったら、今、わたしはこの世界に生まれていないし、何千億はらっても買えないから大切です。自分のいのちがあったら、友だちを作って、いっばいいいしょに遊べるから大切です。楽しいこともあるし、くやしいこともあるけれど、自分のいのちがあれば、人を助けて、「ありがとう」の言葉も言ってもらえて、すごく気持ちいい体けんもできるから、いのちはすごく大切だと思います。

そして、「自分のいのち」と同じように、ほかの人のいのちも大切です。「家族のいのち」や「友だちのいのち」「まわりの人みんなの命」は「自分のいのち」と同じように大切だと思います。



あらためて大切だと気づいた【4年生代表児童】

命は、すごく大切だと思いました。ぼくたちが生まれたのは、お母さんとお父さんのおかげです。いじめが続くと、友達が死んでしまうかもしれません。せつかく生まれた命がいじめで死んでしまうのは、命がもったいないです。お母さん、お父さんががんばって生んで、愛しながら育ててくれた命だから、死ぬのはいけないことだと思います。死んで悲しむのは、お母さん、お父さんだけでなく、友達、先生、みんな悲しんでしまいます。それに、自分も絶対に後悔します。もう1回お母さん、お父さんに会いたくても会えないし、友達と遊びたくても遊べません。

命は、大切だと思っていましたが、あらためて大切だと気づきました。

私の命は、私だけのものではない【5年生代表児童】

私の命は私だけのものではない。三十八億年の命をたどって私の命がある。お母さんやお父さんの命がなければ、私の命だってない。私が命をむだにせずに生きなければ、次に生きる新しい命がなくなってしまう。

命は一人一つしかない大切なもの。だから、どんなにつらいことがあっても、どんなにうれしいことがあっても、私は必ず生きようと思う。私の命は、私だけのものではない。そう考えながら私は生きていく。

「おかげさまで」という本を読みました【5・6・7・8組代表児童】

おかげさまでというのは、「だれかのおかげで、よいことがおこったことへの、ありがとう」という意味です。この本から、ぼくの命は、たくさんの人の助けによって支えられていることを学びました。

ぼくはお父さんやお母さんに支えられています。いつも困っているときに、ぼくを助けてくれます。お兄ちゃんは、好きな食べ物を一緒に食べてくれたりやさしくしてくれたりします。

ぼくも家族に助けられています。お母さんはいつもやさしくて、ぼくのことをかんがえてくれます。お父さんは12歳の誕生日には、「誕生日おめでとう」とお祝いしてくれました。すごくうれしかったです。

人はだいたい100年くらい生きると言われています。その中で、困ったことがあっても、たくさんの人が助けてくれるから、ぼくたちは生きていけるんだと思います。また、たとえ死んでしまっても、命は次につながっていきます。

「おかげさまで、ありがとう」という気持ちを忘れずに、命を大切に生きていかなければならないと思いました。

今、ぼくが命について考えていること【6年生代表児童】

ぼくのおじいさんのことを話します。ぼくのおじいさんは、ぼくが生まれてすぐに亡くなりました。顔は、写真でしか見たことがありません。ですが、今も舞阪の町に生きています、ということかという、今、しらすをとっている船は、僕のおじいさんが造りました。おじいさんはいないけれど、おじいさんの造った船が今も舞阪の海で活躍しています。みんなの生活の中に生きています。僕は、船を見るたびに、とても温かい気持ちになります。

命は、形が変わっても僕たちの心や体の一部として、続いています。

道徳の授業で「命の旅」という話を読みました。みんなの食卓に並んでいる肉、魚、食べ物すべて、もともと大切な命です。たった一つしかない命でした。だから、食べるときは、命に感謝して「いただきます」、食べ終わったら、命にありがとうの気持ちをこめて「ごちそうさまでした」をしっかりとりたいと思いました。

ぼくは、この学習を通して、あらためて命がすごく大事だということが分かりました。これからも、もっともっと大切に生きていきたいと思っています。

